

～令和5年度「学生による授業評価アンケート」集計結果～

本校では学則第26条「自己点検および評価」に基づき、各専任教員の教育能力の向上にむけた取り組みの一環として学生による授業評価アンケートを実施しています。今年度は下記要領に基づき実施しました。今年度はMicrosoft Foamsによるアンケートフォームを作成しました。

1. アンケートの目的と調査対象

目的：学生の評価・意見から、自分が行った授業の実態を把握し今後の授業改善に役立てる。
対象：授業回数7回以上かつ1単位以上で、本校の専任教員が担当している授業（講義および技術演習・臨地実習）。

2. アンケートの種類と回答方法

種類：「講義および技術演習」・「臨地実習」の2種

回答方法：Microsoft Foamsによるアンケート。URLまたはQRコードからアンケートフォームへのアクセスにより回答。アンケート内容は、4段階尺度による評価（4：とてもそう思う、3：そう思う、2：そう思わない、1：全くそう思わない）および意見の自由記載。

3. アンケートの実施方法

- ❖ 原則としてURLまたはQRコードは副校長が作成する。終講時に授業担当教員がURLまたはQRコードが記載された『授業評価アンケート』へのご協力をお願いの用紙を学生に配布する。
- ❖ アンケートは無記名とし、評価や自由記載の内容がどのようなであっても、成績には影響しないことを事前に学生に説明する。
- ❖ アンケート評価への参加は学生の自由意志であるが、教員の「教育能力の向上」「授業改善」のねらいに基づく活動であることを十分説明し、協力を得るようにする。
- ❖ アンケート結果は副校長が取りまとめ教員にフィードバックし、成果と課題を明らかにするとともに、カリキュラム運営及び改善につなげる。

4. 集計結果

①「講義および技術演習」の授業評価アンケート集計結果

今回集計対象となった講義は以下のとおり。

- 1年生：共通基本技術Ⅰ・Ⅱ、日常生活を支援する技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、治療・処置・検査に伴う援助技術、地域・在宅看護概論、成人看護学概論、老年看護学概論、子ども看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論
(履修者数…延べ384人、回収率…32.8%)

- 2年生：与薬に伴う援助技術、地域・在宅看護方法論Ⅱ、老年看護学方法論Ⅰ、健康と暮らしを守る看護、健康回復を支える看護Ⅱ・Ⅲ、地域で暮らす人々の看護、終末期を生きる人々への看護、看護研究の基礎、地域・在宅看護方法論Ⅲ・Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学対象論（看護）、母性看護学方法論Ⅱ
(履修者数…延べ240人、回収率…24.2%)
- 3年生：医療安全、災害看護と国際看護、看護の統合と実践方法演習（倫理演習含む）
(履修者数…延べ84人、回収率…47.1%)

「講義」－評価項目	平均値
1) シラバス（授業計画）に記載してある学習目標と学習内容を把握していた	3.0
2) この講義に意欲的に参加した（集中して聴く、ノートをとる、質問をする等）	3.4
3) シラバス（授業計画）の要点や評価、受講上の留意点等の説明があった	3.2
4) 学習目標や講義計画が明確であった	3.2
5) 時間や内容の配分がよかった	2.9
6) 教員の説明は、具体的でわかりやすかった	3.4
7) 教員の話し方は聞き取りやすかった	3.5
8) 教員は、学生の興味を引き出すような工夫をしていた	3.2
9) 学生が質問しやすく、答えも丁寧であった	3.1
10) 教材・教具（教科書・参考図書・板書・プリント・DVD・パワーポイント、模型など）は効果的であった	3.2
11) この講義は興味・関心が深まる内容だった	3.1
12) 学習目標は達成できた	3.1
<評価項目の平均>	3.2

「技術演習」－評価項目	平均値
1) シラバス（授業計画）に記載してある学習目標と学習内容を把握していた	3.2
2) この演習に意欲的に参加した	3.3
3) グループの一員として協力して取り組んだ	3.9
4) シラバス（授業計画）の要点や評価、受講上の留意点等の説明があった	3.4
5) 講義で学んだ知識とつながり、わかりやすかった	3.3
6) この演習の学習目標は明確だった	3.9
7) 全体の時間配分はよかった	3.7
8) 演習の進め方は、順序よく整理され行動しやすかった	3.8
9) 教材・教具（教科書・参考図書・板書・プリント・DVD・パワーポイント、模型など）は効果的であった	3.6
10) 教員は、学生の理解度に合わせた指導をしていた	3.8
11) デモンストレーションはわかりやすかった	3.7
12) この技術演習を受けて知識・技術が深まった	3.8
13) この技術演習を受けて看護への興味・関心が深まった	3.8
<評価項目の平均>	3.6

②「臨地実習」の授業評価アンケート集計結果

今回集計対象となった講義は以下のとおり。

- 2年生：基礎看護学…日常生活を支援する実習
成人看護学…セルフケア支援実習
老年看護学…老年看護学実習Ⅰ
小児看護学…保育園実習、児童発達支援センター実習、就学前健診
- 3年生：成人看護学…成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ
小児看護学…小児看護学実習
母性看護学…母性看護学実習
精神看護学…精神看護学実習
在宅看護論…在宅看護論実習
看護の統合と実践実習

「臨地実習」－評価項目	平均値
1) 課題を明らかにし、目標が達成できるよう努力した	3.4
2) グループの一員として協力して取り組んだ	3.7
3) 実習目標を達成するうえで必要な体験ができた	3.3
4) 事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	3.3
5) 病棟・部署・施設のオリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	3.3
6) 行動計画について、教員から適切な助言・指導が得られた	3.2
7) カンファレンスでは、教員から適切な助言・指導が得られた	3.4
8) 看護過程の展開について、教員から適切な助言・指導が得られた	3.4
9) 教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた	3.2
10) 教員は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた	3.2
11) 援助行動の立案および援助実施の場面では、指導者から適切な助言・指導が得られた	3.1
12) カンファレンスでは、指導者から適切な助言・指導が得られた	3.5
13) 指導者は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた	3.1
14) 指導者は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた	2.5
15) 実習では、教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携がとれていた	3.2
16) 実習施設・病棟・部署は学生を受け入れてくれる雰囲気だった	3.0
17) 実習に必要な物品、記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室などは確保されていた	3.0
18) 全体として充実した実習だった	3.5
＜評価項目の平均＞	3.2

集計結果の考察と課題

- 本評価においては4段階評価による最高点（4）の7割を基準と考える。講義および技術演習、臨地実習ともに評価項目平均が3.2以上であり、おおむね合格基準に達する評価が得られた。
- 技術演習においては、評価項目9)・11)が3.6以上で高評価である。これはTeamsによる教員作成動画の活用が一定の効果을あげているものと思われる。

- 臨地実習についての自由記載においては、血圧計やパルスオキシメーターの台数の不足やメンテナンスについての意見があった。また、病棟の記録スペースが狭い、寒いなど学習環境についての意見もあり、病院（病棟）・施設側と調整を図っていく必要がある。
- 臨地実習での病院（病棟）・施設側との学生情報の共有範囲、および取り扱いについての意見については、本校の倫理指針に基づきその重要性を再認識していく必要がある。
- 今回、臨地実習においては各評価項目において「実習の領域により異なる」という項目を設けた。15) では「実習の領域により異なる」という選択肢を5人が選んでいる。今回は「異なる」という意見は収集できたが、その内容について収集できる形式はとっていなかったため、今後の改善に活かすうえで有意性が低くなってしまったことは残念であった。次年度は実習領域の別と、その内容についても情報が得られるような設問を考えていく必要がある。
- 改善の要望については、授業を見直すための貴重な意見である。全教員が自分事として受け止め、「学生に何が学ばれたか」に価値を置く授業の展開を目指すことが重要である。

2024・4・9

副学校長 渡會睦美